

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援えがお		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎時、連絡帳、ライン等のツールや面談により保護者との情報共有を密に行い個々の子どもの特性を踏まえながら支援活動を行っている。	ご家族との話しは職員全員で共有する体制作りをしている。送迎でその日の様子をお伝えするなど日頃から職員とご家族もコミュニケーションを図るようにしている。	今後もコミュニケーションをしっかりと図り全職員で支援が行えるようにしていきたい。
2	利用前のアセスメント、半年に一度のモニタリングをしっかりと行い職員、家族が個別支援計画に関する話しをし支援計画の作成している。	施設での子どもの様子を見てもらえる機会を作っている。個別支援計画書の説明を対面で伝えるようにしている。	子ども達の発達支援や家族支援、移行支援、地域支援など具体的な支援計画の作成に取り組んでいきたい。
3	公園遊び、お散歩等の屋外活動を多く行っている。	発語が遅れている子どもに対しSTを行っている。楽しみながら身体を動かす活動や塗り絵等のプリントも取り組んでいる。	手先の細かい動きを向上させる為の簡単な作業訓練を増やしていく。保護者と子どもたちが一緒に参加する活動も増やしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもや他機関との交流の機会がない。	外部機関とつながれるようにする設定が難しい。	必要に応じた情報提供や交流の在り方について取り組みを検討をしていきたい。
2	建物構造や設備面により、運動時のスペースやバリアフリーが十分とは言えないこと。	建物の構造により改善が難しいです。	安全面に配慮しつつ活動内容など安心して利用していただける工夫を行います。
3	感染症対応等のマニュアルが周知されているが保護者に説明する機会を作っていない。	茶話会や親子イベントを増やしていく。	マニュアルの要点をまとめ配布することも検討している。